


事業番号	05 07 05	事業改善シート（令和3年度実施事業分） ■当初要求 □当初予算案 □補正予算案 □点検			
事業名	難病及びその他疾病対策事業	部局	健康福祉部	課・室	保健・疾病対策課
		実施期間	H6 ~	E-mail	hoken-shippe@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	健康寿命				
総合的に展開する重点政策	4-3 医療・介護提供体制の充実				

1 現状と課題

目指す姿 ・ これまでの取組	【目指す姿】 難病： 難病患者が地域で安心して療養しながら暮らしを続けていけるよう、医療費を助成するとともに、難病相談支援センター及び保健福祉事務所における相談等患者支援体制を充実させ、難病診療連携拠点病院を中心とした、早期に正しい診断をつけるための難病診療体制の構築を図る。 骨髄： 関係機関と協力した普及・啓発の推進によりドナー登録者を確保するとともに、県民がドナー登録及び骨髄等の提供をしやすい社会の実現を目指す。 その他疾病： 正しい知識の普及啓発、医療の質の向上に努め、地域における疾病対策の推進を図る。	
	【これまでの取組】 難病： 難病法の施行に伴い平成27年度から難病相談支援センターの相談員を2名に増員し体制の強化を図るとともに、保健福祉事務所における交流会等の充実、また難病対策連絡会議等で多職種による連携を図り、難病医療提供体制について検討 骨髄： 7保健福祉事務所にてドナー登録を受付。骨髄バンク推進月間に合わせて造血幹細胞移植の普及啓発を実施。また、市町村がドナー等へ助成金を支給した場合にその一部を補助する補助金を創設	
令和2年度 点検結果 ・ 現状分析	課 題	今後の方向性
	・指定難病の疾患数は増加しており、疾患は多岐に渡るため、患者及び家族、支援者等の相談窓口の必要性は高まっている。 ・病気の進行に合わせ、適切な時期に適切な支援が必要になるが、難病患者に関わる支援者が学べる機会が少ない。	・相談のニーズは高まっているため、難病相談支援センター相談員及び保健福祉事務所保健師等により、今後も難病患者及び家族等に対し、電話・面談・訪問等による支援を継続する。 ・難病患者の個別性に合わせた、適切な療養生活支援ができるよう支援者に対する研修会の開催を継続する。

2 令和3年度事業内容

予算のポイント・ 主な取組(予定)	✓難病対策の推進 難病医療費の一部助成を適切に行うとともに、難病相談支援センターを設置し、患者及び家族の日常生活における相談に対応	
	✓骨髄バンクの推進 関係団体と協力し、骨髄等の移植に関する正しい理解を促進するための普及啓発活動を実施 市町村がドナー等へ助成金を支給した場合にその一部を補助し、ドナーの負担を軽減	
	✓その他疾病対策の推進 アレルギーに関する正しい知識の普及啓発と、医療提供体制の整備 健康寿命の延伸を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策を推進	

指標の状況及び目標値 [↑:改善、↓:悪化、→:変化なし]							区分(単位:千円)					
No	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度末(見込)	R3年度目標値		R1年度	R2年度	R3年度			
1	難病相談支援センター及び保健福祉事務所における患者支援件数(相談・交流・研修等)	7,992件	8,000件	↑	6,000件	↓	事業コスト	前年度繰越	0	0	要求	2,347,804
								当初予算	2,105,846	2,197,921	予算案	—
								補正予算	405,731	0		
								合計(A)	2,511,577	2,197,921	要求	2,347,804
								うち一般財源	1,066,910	1,111,136	予算案	—
4							決算額(B)	2,511,577				
5							職員数(人)	8.8	8.8		8.8	
成果指標 設定理由	1及び2: 難病患者の生活上の不安が大きいかを踏まえ、難病相談支援センター及び保健福祉事務所における患者支援の回数、また難病患者等ホームヘルパー養成研修受講者数を成果目標に設定 3: 当該値の上昇はドナー登録者数の増加に起因するため、成果目標に設定											